女性管理職が語る

4月1日はスーツを着る日

日本HP 執行役員
サプライチェーンオペレーション統括本部長

吉田 敦子氏

よしだ・あつこ 横河・ヒューレット・パッカード（現日本HP）入社。国際調達などを経て2022年9月サプライチェーンオペレーション統括本部長。23年5月より執行役員。

2024年がスタートし早いもので1カ月が過ぎました。この春に新社会人になる皆さん、迎え入れる企業の担当者の皆さんも、そろそろ準備を始める頃でしょう。私にとっても4月1日は1年を通してのゴールを設定する大切な日です。

四半世紀以上前の4月1日に縁あって現在の会社に入社しました。その日以来、毎年この日には必ずビジネススーツを着ることにしています。

これは入社当時、同期で決めたイベントとして始まりました。「1年無事に働けた」「プロジェクトが成功した」「初めて海外出張を任された」など色々なことを話し合いながら、お客様、同僚、会社、周りの環境、家族や友人、自分に感謝し、次の年度を迎えるのです。

年月の経過とともに大半の同期は転職をし、皆で集まることも難しくなりましたが、自分にとっての大事な決まり事として続けています。普段より少し改まったスーツを着て襟を正し、初心に戻り、その年度の目標を立てています。

その内容はその時の立場でも変わります。昨年から執行役員になり、感謝や振り返り、反省、個人・企業人としての目標などに加え、これまで以上に社員やこれから社会人になる人への思いが強くなっています。

「今年の新社会人たちはどんな人生を思い描き、何を大切にしているのだろう」「同期との付き合いは密なのかドライなのか」「会社に何を期待しているだろう」「働きがいのある会社の定義はなんだろう」「もし明日、私の部署に新人が配属されるとしたら、私はどのように彼らの目に映るのだろうか」「彼らにとって良き上司とは」など考えは尽きません。

30代にマネージャーになり、初めて人事権を持った時、私の上司はシンガポール在住のシンガポール人で、チームのメンバーは全員年上でキャリア年月の長い方々ばかりでした。毎日遅くまでチャレンジが続き、疲労と孤独を感じることも少なくありませんでした。

ある日、私を元気づけてくれようと思ったのか、業務時間外に少し話そうと上司から電話がかかってきました。多くを語らず、「社員は企業にとって家庭からの大切な預かり物であり、私たちの一番大切な財産です。あなたがそれを忘れなければ、あなたはこれからも活躍し続けることができるでしょう」とだけ言って電話が切れました。

「遠くから私の心を読んでいるのかしら」と感じるくらい、心に刺さりました。自分一人で問題を抱えず、周りをよく見てみよう、周りをリスペクトして助けを求めよう、チームで動こう、と言われているようでした。

その日から、この言葉を一日も忘れたことはありません。チームを信頼して仕事を進めること、仕事を任せること、結果的にアウトプットが出ないのであれば、それはチームに対してのゴールの設定が間違っている場合もあるということ――を常に意識して毎日を過ごしています。

忙しさにかまけて意識が気薄になる時もありますが、今のチーム、一企業としてのチーム、そしてこれから出会うであろう新しい世代の皆さんに思いをはせながら、今年も4月1日を迎えてみようと思います。